

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	当事業では、3年間の事業実施における最終的な上位目標を「事業対象地における2歳未満の子どもの栄養摂取を改善する」とし、第1期である今期の事業目標を「村内で栄養改善を行うための人材育成を行い、村人が栄養改善に必要な知識及び技術を身に付ける」と設定している。 <上位目標の目標達成度> 当事業開始直後に実施したベースラインで各コミュニティにおける低体重率平均は22.26%、発育阻害率平均は34.31%であり、国全体の平均（それぞれ17%、29%）と比較してもかなり高いことを改めて認識した。子どもの栄養状態改善に直接的に働きかける活動（各村における栄養回復センターの設置や、栄養菜園で生産した食料を用いた栄養研修等）は、第2期での実施を計画しており、現段階での上位目標の達成を測る数値的な成果は確認できていない。しかしながら、下記に記すよう、当事業第1期の実施において達成された、村内で栄養改善を行うための知識や技術を実際に各村人に普及できる人材の育成は、「2歳未満の子どもの栄養改善をしていく」という上位目標達成のためには必要条件であり、よって、当事業第1期を通じて上位目標の達成に必要な基礎が構築されたと考えられる。 <第1期の目標達成度> 食料確保、現金収入の向上、保健・栄養知識技術改善の各活動による結果として、下記の成果を確認していることから、第1期の事業目標は概ね達成できたと言える。 ● 122名の村ボランティアが農業技術指導者研修に参加し、9割が研修後の理解度テストに合格した。 ● 農業技術研修を受けた1,061名の女性のうち、9割以上が菜園の設置を開始した。 ● 2コミュニティにおいて、回転資金のパイロット運用が開始し、100名の貧困女性への貸し付けを始めた。 ● 128名の村診療所スタッフ、保健ボランティアおよび女性同盟が妊産婦ケアや母乳育児に関する研修に参加し、8割が研修後の理解度テストに合格した。 ● 40名の保健局スタッフ及びコミュニティヘルスセンタースタッフが事業管理・ファシリテーション研修に参加し、6割が研修後の理解度テストに合格した。
(2) 事業内容	以下の通り実施した活動内容を簡潔に記す。 <u>1. 食料確保</u> ◆農業カレンダーの作成及びフードギャップに対する共通理解形成 2013年3月に各村で実施した参加型農村調査法（PRA）において食料が不足する時期（フードギャップ）や村で生産されている農作物を明らかにした。カレンダー作成の結果、多くの村では年間を通じて2回のフードギャップ（2月～4月及び9月～12月）があり、8割以上の村が半年以上の期間、野菜不足の状態にあることが分かっ

	た。この結果は、村人および省政府や国家栄養機関の行政官とも共有され、プロジェクト計画作成に活用された。 ◆食料の量及び種類を増やすための農業技術の改善及び家畜の導入 -農業技術の改善と栄養菜園¹の設置 上記の PRA による調査結果を受け、貧困層でも持続的に実施できる有機農業技術および栄養菜園に関する研修を指導者（インド人講師による省や郡の行政官に対する指導者研修 1 回、郡の行政官に対する指導者研修 3 回、保健ボランティアおよび女性同盟スタッフへの指導者研修 1 回）および村レベル（村人への技術研修 4 回）で実施した。栄養菜園では、フードギャップを埋めるため一年を通して毎月 4 種類以上の作物が取れることを目指して作物の選定や菜園のデザインを行い、各世帯にパパイヤ 3 本、マンゴー 2 本、サボジラ 2 本、アマランサスの種 30g、豆の種 30g、カボチャの種 10g をそれぞれ配布した。また、2014 年 2 月には栄養菜園を実施している世帯の中から最も理想的な菜園を選出する「栄養菜園コンテスト」を開催し、菜園のデザイン、植栽している野菜の種類、堆肥の使用状態、農業廃棄物の再利用などを基準に、最も優れた菜園を選んだ。優勝した菜園は、鶏糞を堆肥に利用するなど循環型農業技術を用いながら、栄養バランスを考慮した野菜を 20 種類も植栽していた。コンテストは、村人たちがアイデアを共有し、学び合う機会となり、また事業対象世帯以外の村人の関心も引き付けた。 -SRI 技術²の普及 米の収量を上げるための当技術による作付けのパイロット実施を秋と春の 2 回行った。1 回目の秋の作付けにおいては、3 コミューンから合計 29 世帯が参加し、計 3.5Ha で作付けを実施した。2 回目の春の作付けにおいては、1 回目の作付けでの参加者の成果を見ていた住人の多くが関心を持つようになり、計 30 回に及ぶ SRI 技術研修を 1 回目と同じ 3 コミューンで実施し、325 世帯が作付けに参加。作付面積は合計 28Ha に及んだ。 -家畜の導入 家畜糞の菜園や水田への再利用促進や現金収入向上のため、2 歳未満の子どもがいる世帯や貧困世帯を中心に、1,279 世帯に合計 6,775 羽（1 世帯につき約 5 羽）の烏骨鶏の雛が配布された。すべての対象村を対象に計 30 回の飼育研修が実施され、延べ 2,428 人の村人が参加し、飼育を順調に開始した。
--	--

¹ 当事業では①農業と家畜飼育等をリンクさせた循環型農業の実施（家畜糞を肥料に利用する等）、②家畜糞や微生物などを用いた有機エネルギー利用、③在来種の保存、④作物の種類や使用法などの多様化といった 4 つのポイントを満たしている家庭菜園を「栄養菜園」と呼び、通常の「家庭菜園」とは区別している。

² System of Rice Intensification の略。発芽後 15 日以下の幼苗を 1 本で植えていく手法。この手法により平均 1.2 倍程の収穫が見込まれる。

◆自然資源の利用を通じた食料確保方法の多様化

上述した PRA では自然資源利用調査も行い、自然資源はすべての村で食生活に利用されており、最も多い村で月平均 11 種類の自然資源を食していることが分かった。また、2013 年 7 月～8 月にかけては、子ども参加による自然資源利用調査も実施した。調査は Tu Le 及び Nam Lanh コミューン双方で行われ、合計 53 名の子どもが地域の①食べられる植物、②動物・水中生物、③地域で栽培されている野菜に関してその種類、採取量、販売の有無、採取量の変化を調べ、特に①②に関しては村の中でそれぞれの資源が採取できる場所のマッピングも行った。通常、家庭の中で自然資源の採取は小学校高学年～中学生の子どもの役割であることが多く、調査により村における自然資源利用（採取の場所や種類、役割等）の多様性が明らかになった。調査結果は双方のコミューンの村人、事業運営員会にシェアされた。

2. 現金収入の向上

50 名の社会開発銀行の職員に対してマイクロファイナンスの貸付強化のための研修を実施し、参加者は特に貧困層への貸し付けに関する留意点や配慮すべき点について学んだ。また、390 名の最貧困層の女性を対象に融資や貯蓄についての研修を実施した。2013 年 12 月には Son Luong 及び Minh An コミューンにおいて、女性同盟のスタッフを中心とした運営委員会の運営による村の回転資金が開始し、100 名の貧困女性への貸し付けが開始された。その後も運営委員会のスタッフや貧困女性を対象とした帳簿付け、資金の貸し出し、貯蓄の仕組み等に関する追加研修を実施し、効率的な回転資金の運営や融資の運用をサポートした。

3. 保健・栄養の知識技術改善

◆ 村のボランティア、村のヘルスセンター職員等の保健・栄養に関する知識、技術の向上

16 名の郡の保健局スタッフを対象に妊産婦検診・完全母乳育児・離乳食についての研修を実施し、その後同参加者が講師となり、村の保健ボランティア及び女性同盟スタッフ、村の診療所スタッフ計 128 名を対象に研修が実施された。村レベルでの研修においては、妊産婦へのカウンセリング方法（世帯訪問で確認すべきポイントやコミュニケーション等）についての知識・技術提供も同時に行った。加えて、72 名の保健ボランティア及びコミューンヘルスセンターのスタッフに対し、体重測定及び記録方法に関する研修を実施した。

◆現地政府、中央省庁のマネージメント強化及び政策提言

当事業終了後もベトナム政府が継続して活動を行っていくことができるよう、保健局スタッフ、及びコミューンヘルスセンターのスタッフ 40 名に対し、事業管理及びファシリテーションに関する研修を実施した。

(3) 達成された成果	上記の活動により、下記の成果が達成された。 <u>1. 食料確保</u> 住民参加型調査の実施により、各村におけるフードギャップやギャップを埋める方法について、村人が認識するようになった。また、有機農業技術および栄養菜園の研修を受けた 1,061 名の村人のうち 92% が研修で身に付けた技術を活かして菜園活動を実施し、そのうち、4 つの条件を満たした栄養菜園を設置できた世帯は 64% に上った。SRI 技術の普及においては、パイロットを実施した 3 つのコミュニティで平均して 10% の収穫増を達成し、食料増加に貢献した。 <u>2. 現金収入の向上</u> 390 名の最貧困層の女性を対象に融資や貯蓄についての研修を実施し、参加者の 9 割がその有効性・重要性を理解するようになった。また、2 コミュニティにおいて回転資金のパイロット運用を開始し、100 名の貧困女性が融資を受け、生計向上をめざし養鶏や茶栽培、小規模ビジネス等の活動を開始した。 <u>3. 保健・栄養の知識技術改善</u> 全ての村において保健ボランティアや女性同盟スタッフを中心に村ボランティアが設置され、診療所スタッフを含む 128 名が参加した妊産婦検診、母乳育児、離乳食に関する研修においては、研修前の理解度テストでは合格者ゼロであったのが、研修実施後の同テストでは 80% が合格するという目覚ましい成果を確認することができた。同様に実施した妊産婦や栄養不良の子どもを持つ世帯へのカウンセリング技術の知識及び技術提供研修においても、合格者ゼロから 82% の合格率を達成し、知識や技術レベルの向上を確認した。 加えて、ベトナム政府の事業管理・ファシリテーションの能力に関しても、事業開始時のテストでは 32% の合格率に満たなかった保健局スタッフが、研修を経て事業終了時には 75% まで合格率があがった。コミュニティヘルスセンターのスタッフについても、事業開始時の合格率 11% から、事業終了後には 58% にまで向上しており、事業の持続性確保に向けて、ベトナム政府側のキャパシティも大きく前進していることが確認された。
(4) 持続発展性	当事業は 3 期にわたる事業実施計画の第 1 期にあたることから、事業の持続発展性に関して結論付けるのはまだ時期早尚ではあるものの、もともと最貧困層でも持続的に実施できるよう、地域の資源を利用した低コスト農業をベースに計画されており、且つ既に 9 割の村人が得た知識・技術を実践していることや、地域の保健サービス提供者の知識や技術の向上が見られることから、今後の高い持続発展性が期待される。